「登校しぶり」をみんなで考えよう 体験記

【低学年女子 Aさんの保護者の方】

1. 登校をしぶり出したころの経緯（子どもの声や態度も含む）

1年生のはじめはわくわくして登校できていましたが、だんだんさみしさが（母と別れる）出てきて、「ついてきて」と言い、校門ではシクシクないていました。

2. 登校をしぶり出したころの思い（親の思い）

いつかはしっかり1人で登校できる！と信じていました。泣いている姿を見ると、心がはりさけそうでしたが、母が子供を信じてあげないとと思い見送っていました。

3. 登校しぶりを克服できた、もしくは良い方向に向かった理由（気を付けたことや意識したこと）

一緒の通学路の友達、上級生の子につれていってもらった事もありました。そして、目標を決めて「今日はここまでにする？」「明日はここまでにする？」と本人に決めさせて距離を伸ばしていきました（一人で歩いていく距離）。「Aはママの子供だから大丈夫！ママも学校行けたから、Aも絶対いける！！」と根拠はないですが、本人に話していました。一緒に歩いている時には、見守り隊の方、同じ境遇のお母さん、同じ通学路の顔みしりの子たちにはしっかりあいさつとちょっとした話もしていました。子供も一緒に。そうすると、みんな声をかけて下さるようになり、「がんばってるね！」「今日はここから1人！すごい！」と言ってもらえるようになり、本人もうれしかったと思います。本当にありがたいなと思っていました。

4. 登校しぶりで困っている保護者へのメッセージ（元気がでる言葉）

泣く我が子を見て、胸がしめつけられる思いで、母も涙が出そうになる事も多々ありました。心を鬼にして、Aが決めた「ここから行く」をゆずらず、我慢しました。大げさかもしれませんが、人生の第一歩、“1人で学校へ行く”これをのりこえられた事で、この先の色々な出来事を乗りこえて行けるような気がしています。しっかり向き合い、信じる事で子供は成長する、いや、母が成長するのだと思いました。

普段、ぐーたらして素敵な育児をしていないですが、少しでも参考になればと思います。何かあれば連絡いただいても大丈夫ですよ。

＜校長のつぶやき＞

「泣く我が子を見て胸がしめつけられる」という気持ち、わかる気がします。でも「Aなら大丈夫」と根拠がなくても言い切るお母さんの毅然とした態度がすばらしいです。その態度が子どもに勇気を与えたのだと思いますね。素敵な子育てだと思います。子育てとともに親育てされていますね。

。